

第5期『鶴見・あいねっと』策定のための
関係団体アンケート まとめ

鶴見区社会福祉協議会

令和6年12月

○ご協力いただいた皆さまへ

この度はアンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。関係団体の皆さまの活動、地域福祉・保健へのご見解、地域共生社会の実現に向けた貴重なご意見をお伺いすることができました。いただいたご意見は、第5期鶴見区地域福祉保健計画策定の材料とさせていただきます。

○調査票前文

鶴見区では、「たすけあい・支えあい・人と人とのネットワーク」を基本理念に、誰もが安心して生活できるまちづくりのための活動「鶴見・あいねっと（鶴見区地域福祉保健計画）」を区民の皆様とともに進めています。

今回のアンケートは、団体の皆様から地域や福祉、保健などの身近なことについてお伺いし、令和8年度から始まる第5期鶴見区地域福祉保健計画の参考とさせていただくものです。

○配布および回収

鶴見区社会福祉協議会会員（第1種、第3種、第5種、第6種）、子どもの居場所連絡会メンバー、企業（ライフライン、タクシー業、小売業）を対象に令和6年9月10日発送～10月4日受付の期間で、郵送または、Microsoft formsにて調査を実施。

配布186件、回収99件（回収率53.2%）。種別ごとの回収率は次のとおり

第3種会員（地区社会福祉協議会）については会長、事務局長へそれぞれ依頼した。

種別	回答数	回収率
第1種会員（施設・社会福祉法人）	19	38.8%
第3種会員（地区社会福祉協議会）	20	55.6%
第5種会員（当事者団体、地域作業所等）	13	37.1%
第6種会員（ボランティア・市民活動団体）	24	68.6%
第7種会員（その他の団体）	9	50.0%
会員ではない（企業、子どもの居場所連絡会）	14	48.3%
総計	99	53.20%

○その他

考察にあたっては令和元年度に行った同様のアンケート結果と比較をしています。しかし、異なる設問や選択肢もあるため、内容を読み替えて比較しているものもあります。

～目次～

＜貴団体について＞

1－② 貴団体の地域活動（ボランティア・地域貢献等）の活動年数について

1－③ 貴団体の地域活動（ボランティア・地域貢献等）について

＜「鶴見・あいねっと（鶴見区地域福祉保健計画）」について＞

2－① 「鶴見・あいねっと」を知っているか

2－② 「鶴見・あいねっと」の3つの柱のうち、取り組みが特に充実してきていると思うものはどれか

＜団体の活動の現状について＞

3－① 活動のPRや会員の募集をどのように行っているか

3－② 必要な情報はどこから得ているか

3－③ 他の団体や関係機関等との関わりがあるか

3－④ 3－③で選択した団体との関わり、連携の好事例について（記述）

3－⑤ 活動をする中で困っていることはあるか

3－⑥ 活動を続けていく中で、区役所、地域ケアプラザ、区社協に具体的にどのような支援を期待するか

＜誰もが安心して暮らせる地域づくりについて＞

4－① 成年後見制度について知っているか

4－② 生活困窮者自立支援制度について知っているか

＜社会福祉法人の地域貢献・企業連携について＞ 社会福祉法人・企業のみ回答

4－③ 社会福祉法人、企業と連携を進めていく際に、どのようなことで関わりたいか

4－④ 社会福祉法人、企業の立場で具体的に地域と連携したい取組はありますか(記述)

＜自由意見＞

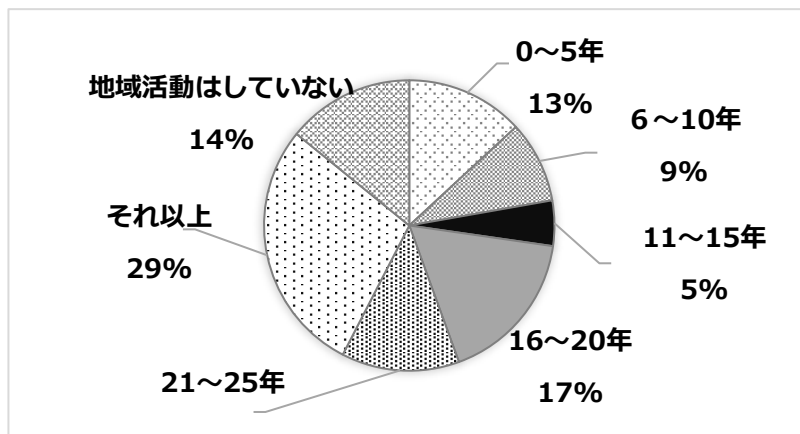
鶴見区を良くするためのご意見・ご提案について（記述）

＜考察＞

【資料】

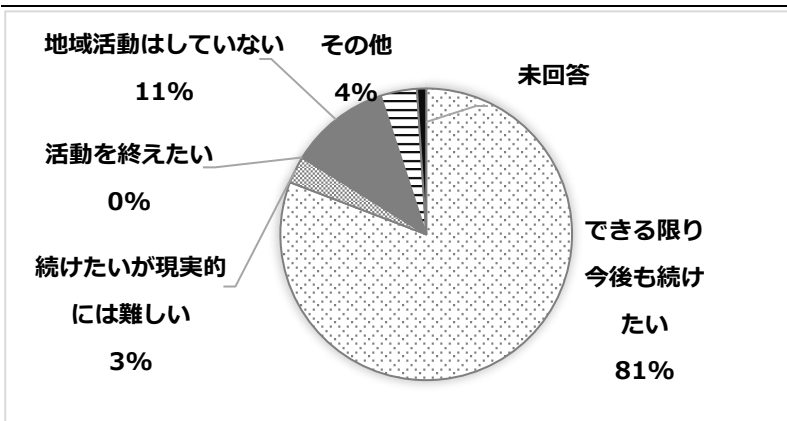
・調査票様式

1-② 貴団体の地域活動（ボランティア・地域貢献等）の活動年数について



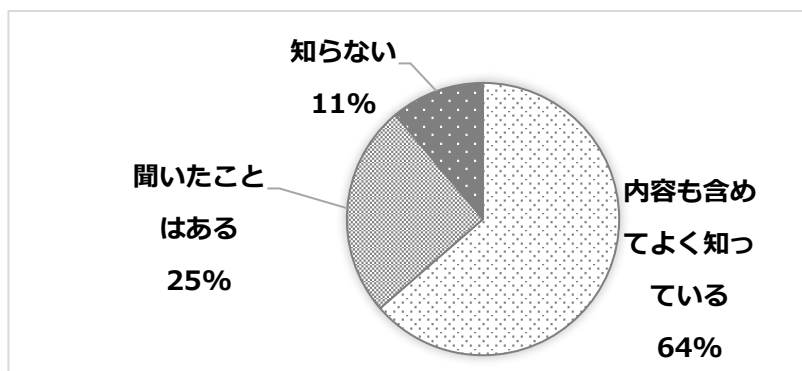
「26 年以上」と答えた団体が 29%と最も多かった。

1-③ 貴団体の地域活動（ボランティア・地域貢献等）について



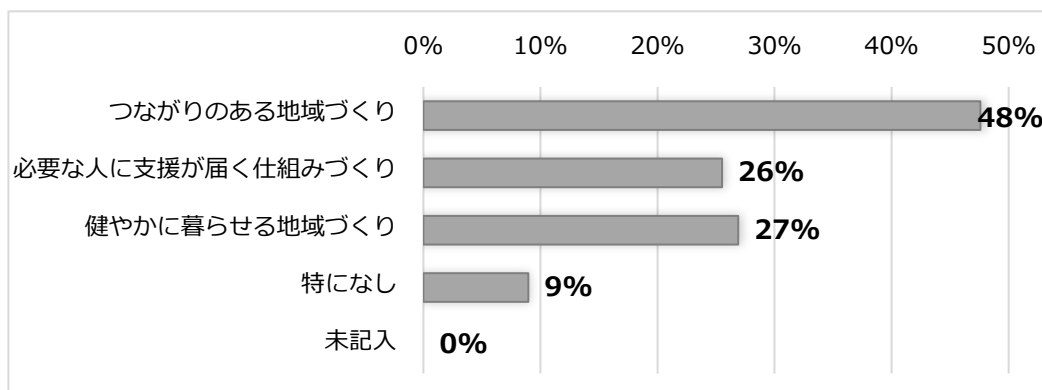
「できる限り今後も続けたい」が 81%となった。

2-① 「鶴見・あいねっと」を知っているか



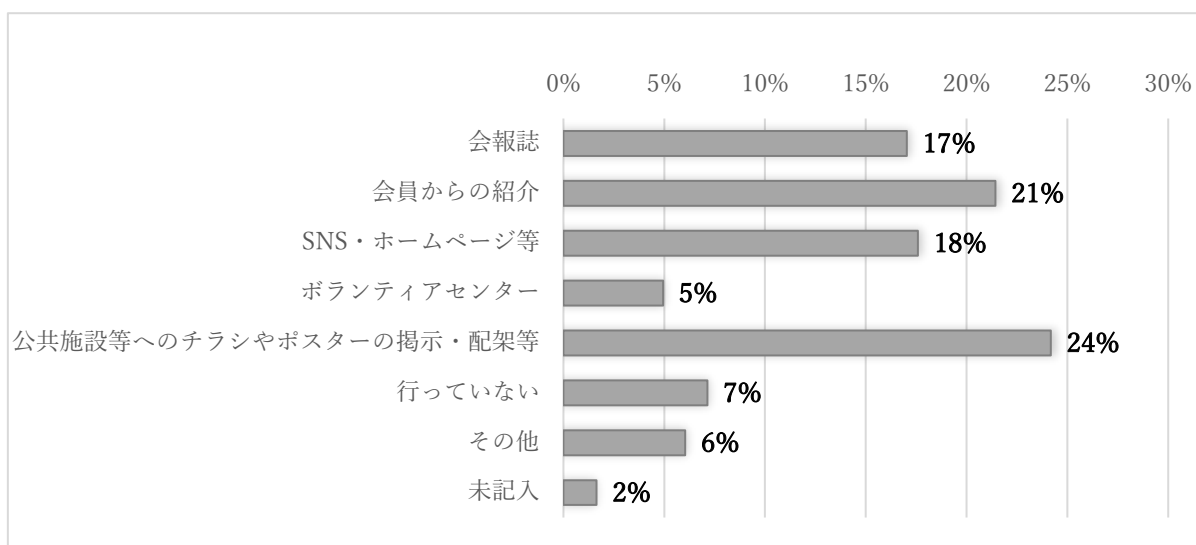
前は「よく知っている」が 32%だったが、今回は「内容も含めて知っている」が 64%と大きく上昇した。

2-② 「鶴見・あいねっと」の3つの柱のうち、取り組みが特に充実してきていると思うものはどれか（複数回答可）



前は「つながりのある地域づくり」「必要な人に支援が届く仕組みづくり」「健やかに暮らせる地域づくり」がそれぞれ44%、23%、23%だったが、今回は48%、26%、27%となり、全ての項目で3～4ポイント上昇した。

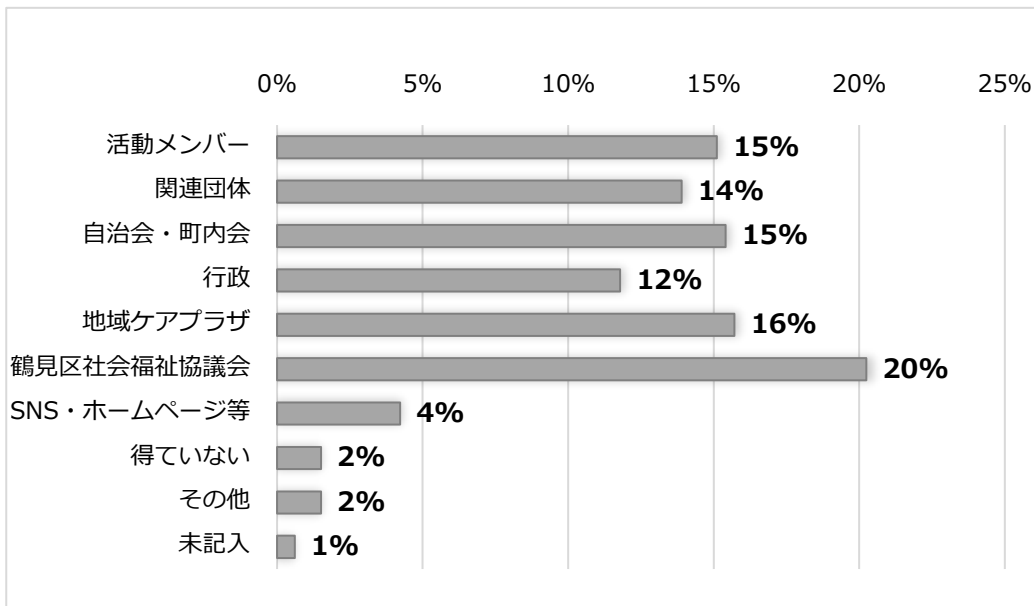
3-① 貴団体の地域活動のPRや会員の募集等をどのように行っていますか？（複数回答可）



前は「ホームページ」が25%、次いで「公共施設等への掲示」23%、SNSは5%が活用していると回答だった。

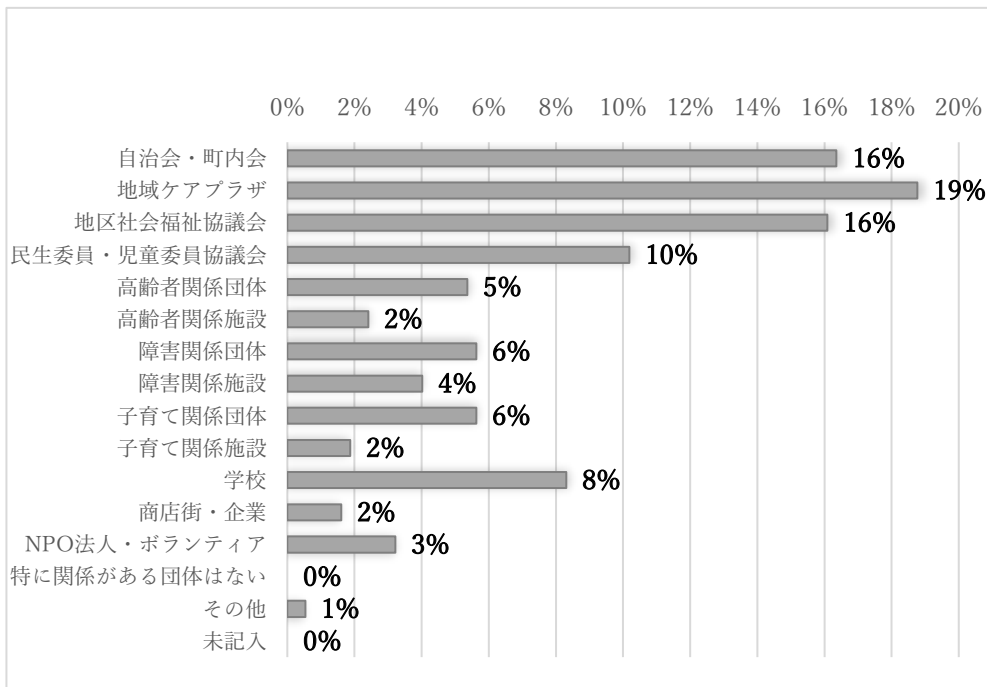
今回は「公共施設への掲示」が24%と最も多く、次いで「SNS・ホームページ等」が18%となった。

3-② 貴団体の地域活動に必要な情報・活動支援は、どこから得ていますか？（複数回答可）



「鶴見区社会福祉協議会」が20%でもっとも多く、「地域ケアプラザ」「他関連団体」、「自治会・町内会」など次いで多くなっており、傾向はあまり変わっていない。

3-③ 貴団体では、他の団体や関係機関等との関係がありますか？（関わりが深い団体5つまで）



「地域ケアプラザ」「自治会・町内会」「地区社会福祉協議会」が多く、傾向に大きな変化はなかった。団体によって関わりはバラつきがある。

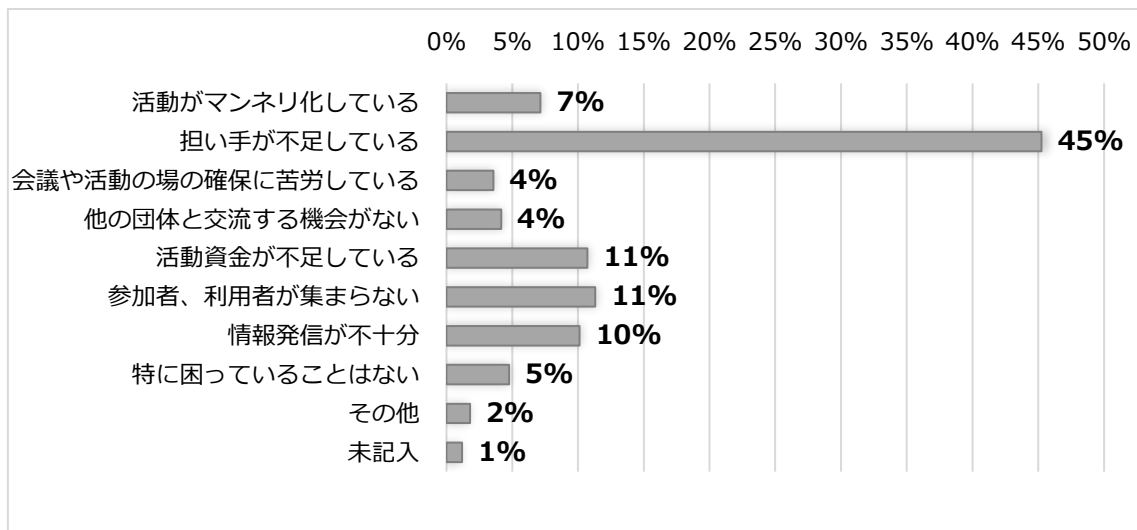
3-④ 3-③にて選択して頂いた団体との関わり、連携の好事例があればご記入ください。

団体	内容
会員ではない	地域ケアプラザの夏祭りの企画、運営を共同で行っている。また、障害者行事を合同で行っている。
会員ではない	通常の事業運営の中で、定期的会合等で情報共有を行い課題や対策に役立てている。また、地域の活動団体との交流で活動の様子や情報交換を行い、お互いに協力できる事などを確認している。
会員ではない	近隣の保育園と交流があり、先生に「保育園の先生と遊ぼう」「保育園の栄養士さんによる離乳食講座」などイベントを行ってもらっている。また、保育園での行事などを配架し利用者に情報を提供している。
施設・社会福祉法人	学校への手話指導
施設・社会福祉法人	子育て関係団体に毎年活動助成金を出していて、とても喜ばれている。障害者団体支援で、製品の購入を通してありがたいとのこと。
施設・社会福祉法人	地域ケアプラザとの協働で食堂の運営（月1回）をできている。地域の居場所づくりの運営にも協力出来ている。
施設・社会福祉法人	2つの連合会と協力して幅広い世代が交流できる夏祭りを開催している。
施設・社会福祉法人	地域での防災訓練に参加させてもらえる。
施設・社会福祉法人	民生委員+保活のひとり暮らしの高齢者訪問で必要な人（配食）を推進してもらうような組織になっている
施設・社会福祉法人	老人会の方と昔遊びなどを通して、交流する機会を持てた。子どもたちも遊びが上手なおばあちゃんたちと楽しそうに遊んでいた。 他の子育てサークルのメンバーと交流し、情報交換などする機会が持てた。
地区社会福祉協議会	学校に活動の場を提供してもらっている。
地区社会福祉協議会	補助金申請報告のお手伝い、活動のPR。
地区社会福祉協議会	資料作等
地区社会福祉協議会	ケアプラザと実行委員会を立ち上げ食堂を実現した。 ケアプラザの施設、道具類を無料で使わせてもらっている。
地区社会福祉協議会	手話の勉強会開催にあたって会場を提供してもらっている。 また会員募集などにあたって公報紙に掲載していただいている。
地区社会福祉協議会	スタッフは自治会の方々、ケアプラザは申し込み受付、地区社協と商店街は賛助金、学校はプリント配布、民生委員は窓口となり責任者となってもらっている。
地区社会福祉協議会	利用者さんの紹介を町内会、ケアプラザに協力を得る。

地区社会福祉協議会	自治会、町内会とは適宜情報共有、活動支援をしている。 民生委員、児童委員協議会の連絡会に参加し適宜情報提供しています。また、個別ケースや地域活動では連携している。
地区社会福祉協議会	自治会・町内会単位の子ども会である。
地区社会福祉協議会	研修会や勉強会を協働で開催している。
当事者団体、地域作業所等	「つばさねっと」にて定期的に研修を行っている。
当事者団体、地域作業所等	活動拠点を中心にイベントの参加やボランティアに参加する事で、地域との繋がりを感じたり、会議や研修を通して他の団体との情報共有や勉強に繋がっている。
当事者団体、地域作業所等	川のまちエリア会議
当事者団体、地域作業所等	「作業の受注や、それに関する情報共有」、「イベントの情報交換」等。
当事者団体、地域作業所等	鶴見区に転入したばかりで汐田の小児科を受診した児童にネグレクト疑いあり、経済問題も抱えていることが判明。学習支援と食料支援を無料塾で対応しながら、学校、行政ともカンファを継続し、両親への支援の結果生活保護につながった。現在は、全面的な子どもへの支援が行える団体に移行したが、区内関係機関との連携で支援できたと思っている。
当事者団体、地域作業所等	福祉活動ホームのバザーや祭りに参加、ホームからは勉強会の案内をいただくなどお互いに情報共有、協力させて頂いている。
当事者団体、地域作業所等	企業-商店から物資の支援。
ボランティア・市民活動団体	一緒にイベントを企画した。ほかには、拠点を貸した。
ボランティア・市民活動団体	地域の小学校、中学校との連携が上手くいき、この度“地域清掃プロジェクト”を立ち上げることができた。
ボランティア・市民活動団体	日本語教室の会場として利用させていただいている。日本語教室のチラシなどを配架してもらっている。
ボランティア・市民活動団体	地域ケアプラザ、鶴見区社会福祉協議会等の会議でアピールさせていただき、ご利用者様を紹介してもらった。 お陰様でサービス B への取り組みが順調に行えている。
ボランティア・市民活動団体	運営参加団体として年に 4 回の運営委員会に参加させていただいて交流している。
ボランティア・市民活動団体	いろいろなことについて助けていただきとても助かっている。

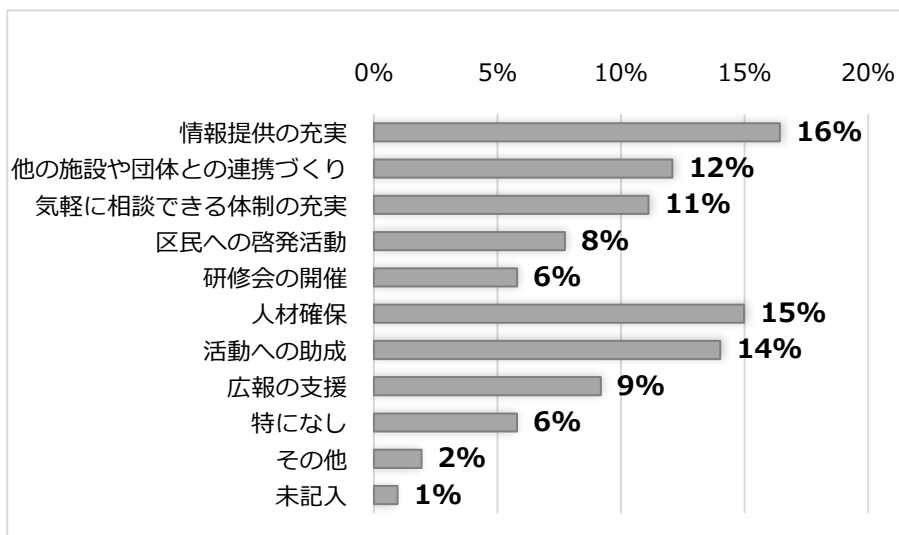
ボランティア・市民活動団体	作業の受発注、イベントの共催、情報共有など
ボランティア・市民活動団体	利用案内のパンフを送付した。タクシーの料金が高く、負担が大きかった。このサービスを知って助かったとの声が寄せられた。
ボランティア・市民活動団体	ケアプラザ、施設の優先利用、利用者紹介、支援者の募集支援。
ボランティア・市民活動団体	・地区連合会運動会で敬老席を設け、接待は民生児童委員が、お茶等の援助は社協が担っている。 ・地域ケアプラザは、私たちの様々な活動の核になり、協力を頂きとても助かっている。
ボランティア・市民活動団体	地域ケアプラザにて活動場所となっている為、分科会に出席した時に他の団体と関わる事が出来ている。
ボランティア・市民活動団体	イベントの実施や交流や、子育て関連での連携は積極的に行っている。
ボランティア・市民活動団体	・事業、イベント等で自治会、子供会を含めた共催という形態で行なう活動がある。 ・年 1 回の総会に学校長、郵便局長、地域ケアプラザの担当者の参加を戴いている。 ・毎月 1 回の図書館定例会に子供会担当者 2 名も参加し、子供会活動計画の発表を戴いている。
ボランティア・市民活動団体	自治会町内会の人たちが地区社協の役員となっている。
ボランティア・市民活動団体	秋まつり開催の援助、餅つき大会開催している。
ボランティア・市民活動団体	地区社協を含め皆様には様々な活動に参加ご協力頂き感謝している。
その他の団体	区社協、地域ケアプラザにて「福祉講座」の講師を紹介して頂き又、職員の参加もあり、広く地域福祉に関わる団体が知られる様になった。また、学校支援に関わり、子供達と顔見知りの関係が出来た。
その他の団体	団体（地区社協）の役員（理事）をしてもらっている。
その他の団体	利用者さんの紹介を町内会、ケアプラザに協力を得る。
その他の団体	学校内学習支援、地区社協企画している。

3-⑤ 貴団体が地域活動をする中で、困っていることはありますか？（3つまで選択可）



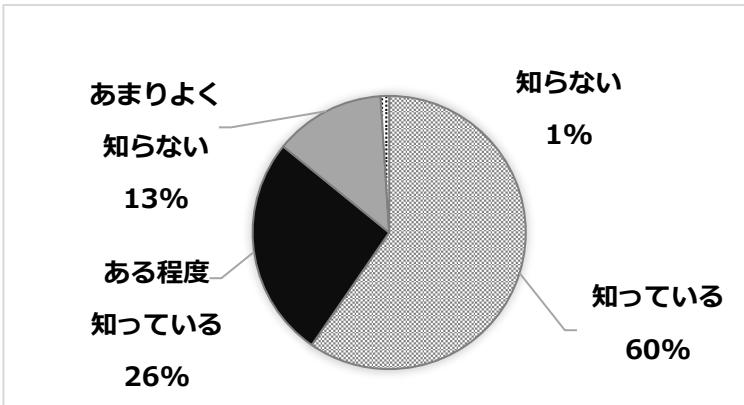
「担い手が不足している」が45%で最も多かった。前は同じ選択肢はなかったが、「メンバーが固定化」が20%だった。「参加者、利用者が集まらない」は前回は20%だったが、今回は11%と下がった。

3-⑥ 貴団体が地域活動していく中で、区役所や地域ケアプラザ、区社協に具体的にどのような支援を期待しますか？（3つまで選択可）



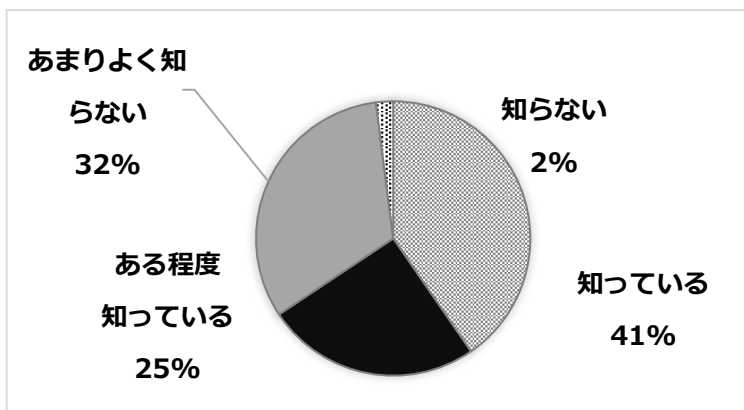
「情報提供の充実」が16%で最も多く、次いで「人材確保」「活動への助成」となった。

4－① 成年後見制度を知っていますか？



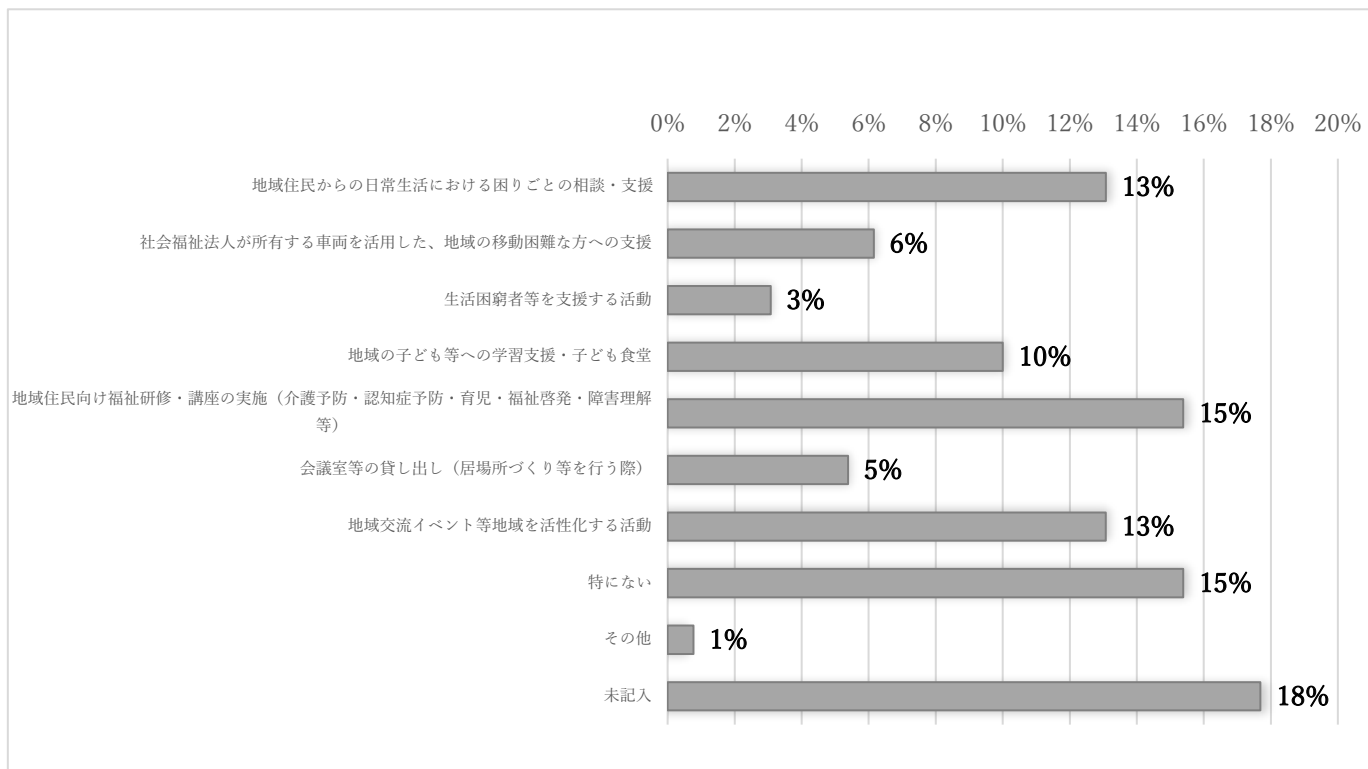
「知っている」が60%と最も多くなっている。

4－② 生活困窮者自立支援制度を知っていますか？



「知っている」が41%と最も多くなっている。

4-③ 社会福祉法人、企業と連携を進めていく際に、どのようなことで関わりたいですか？



「地域住民向け福祉研修・講座の実施」が15%で多かった。

4-④ 社会福祉法人、企業の立場で、具体的に地域と連携したい取組はありますか？

○避難訓練

○認知症デイサービスがあるので半年に一度、会議があります。施設の報告が主ですが、地域の行事や施設の行事を情報交換しています。

○お祭りや研修会など行っていきたいです。防災訓練や防災に関する研修。

○セルフレジや飲食店などのタッチパネルの使い方講座（教室）などがあると助かります。利用を避けていた人も、そういった機会に実際の機械を触らせて頂けると抵抗感が薄れるのではないかと思います。

○地域主体の活動にて、必要に応じて情報提供や自立できるまでの支援をしたいです。

○認知症サポーター養成講座等を開催することで地域づくりを推進したいです。

○地域支援、個別支援、CM やディを運営する施設だからこそ集まる情報をタイムリーに地域の方へ届けるとともに、すでにある顔の見える関係の中で気軽に相談できる体制を充実させたいです。

★鶴見区を良くするためのご意見・ご提案について～自由意見～（原文のまま）

○幼児の室内遊び場の確保が難しい。（夏は公園にいけないし、基本的に市民プールはオムツの外れた幼稚園生以上で、未就学児の遊べる場が少なすぎる）

○相互理解をはかるためには対話会や研修なども一助になるかと思います。

○地域の団体とのたすけあい、イベント開催を団結してつくりたい。

○8050 問題、ヤングケアラー、引きこもりは少年時からの周囲との付き合いが大切だと思い、なるべく小・中学生のうちに地域住民と顔を合わせるような活動、行事を行おうと考えているが、最近の保護者は自分の負担になりそうなことには、子どもを参加させない傾向にあるので、苦慮している。また、責任追及などにおける過大な権利要求があり、二の足を踏ませる傾向にもある。

○駅周辺的环境整備から始めてもらいたい。エレベーターも不便な場所にあるし、バスターミナル内にオープン型喫煙所があるのもどうかと思うし、清潔感も？改札を出た所から鶴見の印象は決まる。たくさんのバリアをフリーにするための活動を官民協働で（民のボランティアにお任せではない）やってますを区民が実感できないと、なかなかよくはならないと思います。

○多文化共生やインクルーシブ教育等について、土日一般区民の人たちに向けて講座を開くといった工夫が必要かと思います。

○鶴見区ではないのですが、重度男性利用者中心の当法人のグループホームに求人をだしてもパートの世話人の応募がなく困っています。地域の中で就業希望がいらないかを気軽に問い合わせできる仕組みや手段があると嬉しいです。

○少しでも就労に繋がりそうな講座の開催などを頻回に開催したり、定期的にイベントを開催するなどが良いかと思います。

○身近なところで知り合う事が無いために、当事者の気持ちや置かれている状況が想像できない。自分たちにどのような事が出来るのかも含め気持ちや状況などを知れる場があるといいなと思います。

○各団体それぞれの事業や活動に追われているのが現状だと思います。当施設もそうですが余裕がないです。

○それぞれの役割を全うできることが鶴見区活性化に繋がる一番の取り組みであることを皆が理解したうえで、鶴見区のミッションビジョンである「あいねっと」の浸透が大切だと思います。そして「あいねっと」が如何に自分たちの活動や自分たちのメリットになるのかを知ることができることで前向きに協力ができるのかなとも思います。

○関係する方々だけが、問題にする事ではないでしょう。地域で暮らす、1人1人が、地域に関心を向けていけるよう、自ら、声をあげられない方に目を向け、声をかけられる地域の一員として、活動していきたいと思っています。

○移動支援の拡充と、ひきこもりの方への社会参加への支援。

○イベントに母国の料理ブースを設けて販売して頂く。

○様々なサロン。まずは、集まれるという場があると良いと感じています。

○たくさん問題がある事も、次々と課題がある事も、自分なりに理解しています。様々な講演会

に参加させて頂いています。やはり当事者のかた、実践している方の話を聞くと納得し心に響きます。一人でも多くの方に聞いて欲しいと思います。昼間の講演会も良いですが、高齢の方が多い様で夜間の講演会もあれば若い方の参加も見込まれると思います。

○1.ヤングケアラーは自宅が生活費困窮宅で働き頭が仕事に追われている宅だろうから 2.不登校・ひきこもり、学生さんは学校の先生では学業と違うところがあるから無理がある。学歴関係なく、経験者に相談乗って頂く事の方が説得力が違いうだろう。今後学校に専任者を配置する様だが、今更教育委員会が相応しい人材適任者を学歴から決めるだろうからダメ。地域に居る筈だ。年齢問わず（行政で動き始めたところもあるようだが、）休日も動けて寄り添える人選、今の時代にそぐわないだろうが、鶴見区に期待。

○どこに相談したらいいのか分からないという方が多いように思います。何でもいいから、「ここ」という相談場所があると良いですね。そこから専門の窓口を分けてくださったらありがたいのに。

○折角ボランティア精神をお持ちの方がいらっしゃるのに、次の担い手がいない、代表者のなり手がいないなどと続けたくてもなかなか続けることができないグループがいくつかあります。実にもったいないことです。まず人材が大事。次に助け合い。支え合いができるのではないかと思います。

○各ボランティアグループが多くある中、深刻な問題を抱えている人の受け入れは難しい中、私たちが心にかけていることは、笑顔で接すること。経験としてひきこもりの若者に対して理解して自然な態度で接し、あまり特別扱いしないであたたかく迎えることが良い方向に思います。

○いつも助言、応援ありがとうございます!!

○支え合いができるよう、支援者（サポーター）の育成。認知症、障がいを持った方への理解に役立つ啓発活動や勉強会→今も行われているが、関心がうすいのをどうしたらよいのか？専門職（介護職）の資格取得への助成と取得者の掘り出しと現場就職への支援。

○多様性を認め合う社会を構成していく上で必要な人、モノ、金を吟味し、効率よくかつ合理的に利用しながら、行政やボランティアが協力して問題解決に取り組む。

○やはり、当事者の声をキャッチして気づくことが大事かと思います。お会いした際、住環境や健康管理はもちろんですが、言葉にならない表情や想いを汲み取る事に関心をよせ、安心と信頼を築くことに務めたいと考えています。そのために、学習を力にできるよう、系統的な講座、研修を望みます。

○それぞれの問題をテーマにした研修会、勉強会がもっとあればいいのにとします。

○バスの運転免許が少なくなっている事で交通が今より難しくなりそうな気がします。地下鉄やJR・私鉄など駅ができると良いと思いました。

○福祉問題については、予算と人材が必要だと思います。どうすれば解決できるか。

○ボランティアをやるにあたって、個々の団体があまりにも自分主義に感じます。

○“個人情報の保護”はどうしたら徹底できるのか？今一度考えたいし、取り組むべきだと思う。

近年グループ、組織での凶悪犯罪が多く憂いを感じます。”

○社協の活動がどんどん広がっています。この世の中でタイムリーに勉強会など開催していますが、実際喜ばれるのは、普段の日で年齢の高い人たちが多。土日の開催を望む若い世代。土日に、と

今困っています。聞いてもらいたい若い世代の共働きがあります。これから土、日、開催に心がけて行こうとはおもっています。

○8050 問題が近くで見かけるので心配だ。ヤングケアラーも気になるけど余りに見かけないが気になる。ひきこもりの支援の状態を知りたい。

○引き続き声なき声の拾い方を意識して、支援の届かない方が少しでも減るよう尽力いたします

○自治会も安心安全な地域作りを目指し活動していますが、最近特に若い人の参加が難しくなっています。

○地域住民への活動報告については毎月諏訪坂ニュースを回覧掲示板で発信しています、

○大規模な地震等の災害については、今年地域住民有志で約 31 名のサポートチームを立ち上げラインでつなぎ情報の共有とお手伝いのお願いを致しました。(若い男性・女性・多数参加) "

国として対応策をしっかりとって頂きたい

○クスリのオーバードーズ等も自分がどうしたらいいのか相談も出来ず悩む若者が多い時代です。居場やふれあい等もう少し国をあげて取り組んでほしいと思う。

○バザーなどのイベントを開催してほしい。フリーマーケット等を通して、いろいろな人と顔を合わせ、活動を知ってもらうことで、誤解を解き、理解を深めてもらいたい。

前者は困っている当事者をキャッチして相談窓口へ繋げるため、後者は多様性を認め合っていくことについて理解を求めるため、それぞれポスター掲示やチラシ配布などによる周知活動が必要だと考えます。

○現在、大人は新しい世代のために、皆がありのままで居ても良いと歌っています。

○なぜ人は家族にひきこもりや子どもながら親の面倒を見ないといけない問題を抱えていても人には話せない？

○他人に迷惑をかけないという考えが深く根付いているかもしれない、比べる姿勢、他の人がどう思うかどう感じるかを考えるべし、誰かに向かって自分の考えを言えないのは集団行動ばかりさせてきたら今の若者は自分の意見さえ言えない環境になってしまっているのではと思ってしまいます。

○多様性を尊重して共に生きるという考え方が大切と言われているが、まだまだマイノリティが声を上げるのは難しい。特に外国人は日本語の壁もあり、他人に迷惑をかけるのではと遠慮してしまうことも多い。そこで、外国人がもっと地域活動に参加できるように、自分の文化を発信する機会を作るのはどうか。鶴見区に多く住む南米出身の人々が言語や豊かな食文化を紹介できるイベントなどを行ない、地域住民がお互いに知り合う場をつくってほしいです。

○制度の狭間の複合的課題を抱えた方への支援には、行政も横に繋がる必要がありますが、行政はまだまだ縦割りで地域の困りごとをケアプラザに任せすぎてるのではないかと思います。

社協さんには、これまで以上に、地域のインフォーマルな情報や団体をつなぐ役割を期待している。

○孤独にさせない取り組みとして、学校関係者・町内会・民児協等と連携して、顔の見える環境を整える必要があると考える。また子供達・お年寄りの方々のご意見を聞くことも(場所) 必要と考えている。その地域にあった取り組み(活動)を考える。

○まずは自分の暮らすまちには、様々な方がいることを知っていただきたいです。

そこに課題があるのならば「私のまちのこと、私の隣の人のこと、私とあなたのこと」と無関心から関心へ動くお手伝いがしたいです。

○簡単に言えば国がしっかりと考えて行えば良いと思う!ただ、そこを除けば地域やケアプラザと言った細かい事でも情報を共有していけば問題が解決するのでは、少しでもこの鶴見区に住んでいる人が住みやすくなれば。

○ブームに乗らず、根本的な議論ができるようにする。

○特定の人たちだけで決めず、住民が参画できるように改革してもらいたい。

<考察>

地域活動の活動年数は26年以上が最も多く、今後もできる限り続けたいと意向がある一方で、半数近くが担い手不足を課題に挙げています。支援者へ期待することとして、情報提供の充実、人材確保（担い手の発掘）、他施設や団体との連携づくり、活動への助成などが挙がっています。鶴見区社協としては、会員組織としてのネットワークを生かし、種別を横断したつながりの機会を充実するとともに、福祉以外の分野も含め会員の枠を超えたネットワークづくりにも取り組む必要があります。様々な切り口で担い手の発掘・育成を行うとともに、コーディネート力強化により一層取り組む必要があります。また、引き続き活動団体への資金面での助成による支援をします。金銭面の支援だけではなく、区、ケアプラザ、関係機関と情報を共有しながら、必要に応じ研修の場を設けたり団体がより活発になるようサポートをします。

団体の連携先としては『自治会・町内会』や『地域ケアプラザ』『地区社協』などの地域団体が多い一方で、商店街・企業、NPO・ボランティアはまだ少ない状況です。また、地域活動をする上の課題では担い手不足、参加者、利用者の確保、情報発信が不十分などが挙げられています。企業・NPOの強みを生かした、情報発信の仕方や担い手不足でも運営できるような活動のヒントを得る機会とし、福祉以外の分野を超えた団体との連携を支援することが必要だと考えられます。

「鶴見・あいねっと」に関しては、「内容を含めよく知っている」団体が60%を超えており、第4期の間に活動団体の中では理解が進んだと考えられます。今後も、これらの団体を通して住民の皆さんや民間企業等の福祉以外の団体にも理解が広がっていくことが期待されます。区民向けの区社協・地区社協広報誌、会員の会報、ホームページ、様々なネットワークを通じ、周知を続けていきます。

今回頂いたアンケート結果は計画策定の参考とさせていただき、地区社協や関係団体等の皆様にも計画が身近に感じていただけるよう策定を進めて参ります。

引き続きご協力のほど、宜しくお願い致します。

第5期『鶴見・あいねっと』策定のための関係団体アンケート

鶴見区では、「たすけあい・支えあい・人と人とのネットワーク」を基本理念に、誰もが安心して生活できるまちづくりのため、区民のみならず、区役所、関係機関による「鶴見・あいねっと」(鶴見区地域福祉保健計画)を進めています。

この計画は、5年ごとに見直しと策定を行っています。今回のアンケートは、令和8年度から始まる第5期計画に、鶴見区で活動されているみなさんの声を反映させていただくために行うものです。お忙しいところ大変恐縮ですが、ご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。

なお、並行して鶴見区民2,000名を対象としたアンケートを実施しております。

令和6年9月

ご記入にあたってのお願い

- ・このアンケートは、鶴見区社会福祉協議会の会員及び鶴見区内で福祉等の活動をされている団体を対象にお送りしています。
- ・ご回答いただいた内容は、調査の目的以外に使用いたしません。
- ・回答時間の目安は15分程度です。

1 封筒の宛名に書かれた団体としてご回答ください。

2 以下の要領でご回答ください。

- (1) あてはまる番号に○をつけてください。
- (2) 質問によって「○は1つだけ」、「○は5つまで」、「○はいくつでも」といった指定がありますので、ご注意ください。
- (3) 回答が「その他」にあてはまる場合は、() に具体的な内容をご記入ください。

3 以下のいずれかの方法でご回答ください。

(1) オンライン

右記の二次元コードからアクセスし、入力してください。

<https://forms.office.com/r/A4HFWptfD8>

(2) 郵送

この用紙にご記入いただき、同封の返信用封筒にてご投函ください。(切手は不要です。)

※切手: 令和6年10月4日(金)まで



《問い合わせ先》 社会福祉法人横浜市鶴見区社会福祉協議会

住所: 〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央4-37-37 リオベルデ鶴見2階

電話: 045-504-5619 FAX: 045-504-5616



鶴見・あいねっと

第5期『鶴見・あいねっと』策定のための関係団体アンケート

1 貴団体についてご回答ください。

1-① 団体名(記入及び選択)

1. 区協議会 種別 2. 会員ではない ※会員種別は、封筒の宛先に記載しています

1-② 貴団体の地域活動(ボランティア・地域貢献等)の活動年数について(○は1つだけ)

※企業活動や社会福祉法人の本業としての活動は除く

1. 0～5年 2. 6～10年 3. 11～15年 4. 16～20年 5. 21～25年 6. それ以上
7. 地域活動はしていない

1-③ 貴団体の地域活動(ボランティア・地域貢献等)についてお答えください。(○は1つだけ)

1. できる限り今後も続けたい 2. 続けたいが現実的には難しい 3. 活動を終えたい
4. 地域活動はしていない 5. その他()

2 「鶴見・あいねっと(鶴見区地域福祉保健計画)」について伺います。

2-① 「鶴見・あいねっと(鶴見区地域福祉保健計画)」を知っていますか? (○は1つだけ)

1. 内容も含めてよく知っている 2. 聞いたことはある 3. 知らない

2-② 「鶴見・あいねっと(鶴見区地域福祉保健計画)」は3つの柱から成り立っています。この中で

貴団体として、取組が特に充実してきていると思うものはどれですか? (○はいくつでも)

1. つながりのある地域づくり 2. 必要な人に支援が届く仕組みづくり
3. 健やかに暮らせる地域づくり 4. 特になし

3 貴団体の地域活動(ボランティア・地域貢献等)の現状について伺います。

3-① 貴団体の地域活動のPRや会員の募集等をどのように行っていますか? (○はいくつでも)

1. 会報誌 2. 会員からの紹介 3. SNS・ホームページ等
4. ボランティアセンター 5. 公共施設等へのチラシやポスターの掲示・配架等
6. 行っていない 7. その他()

3-② 貴団体の地域活動に必要な情報・活動支援は、どこから得ていますか? (○はいくつでも)

1. 活動メンバー 2. 関連団体 3. 自治会・町内会 4. 行政
5. 地域ケアプラザ 6. 鶴見区社会福祉協議会 7. SNS・ホームページ等
8. 得ていない 9. その他()

3-③ 貴団体では、他の団体や関係機関等との関係がありますか？（関わりが深い団体5つまで）

1. 自治会・町内会	2. 地域ケアプラザ	3. 地区社会福祉協議会
4. 民生委員・児童委員協議会	5. 高齢者関係団体	6. 高齢者関係施設
7. 障害関係団体	8. 障害関係施設	9. 子育て関係団体
10. 子育て関係施設	11. 学校	12. 商店街・企業
13. NPO 法人・ボランティア	14. 特に関係がある団体はない	15. その他（ ）

3-④ 3-③にて選択して頂いた団体との関わり、連携の好事例があればご記入ください。

3-⑤ 貴団体が地域活動をする中で、困っていることはありますか？（〇は3つまで）

1. 活動がマンネリ化している	2. 担い手が不足している
3. 会議や活動の場の確保に苦労している	4. 他の団体と交流する機会がない
5. 活動資金が不足している	6. 参加者、利用者が集まらない
7. 情報発信が不十分	8. 特に困っていることはない
9. その他（ ）	

3-⑥ 貴団体が地域活動していく中で、区役所や地域ケアプラザ、区社協に具体的にどのような支援を期待しますか？（〇は3つまで）

1. 情報提供の充実	2. 他の施設や団体との連携づくり
3. 気軽に相談できる体制の充実	4. 区民への啓発活動
5. 研修会の開催	6. 人材確保
7. 活動への助成	8. 広報の支援
9. 特になし	
10. その他（ ）	

4 誰もが安心して暮らせる地域づくりについて伺います。

誰もが安心して暮らせる地域づくりに必要なこととして『成年後見制度・生活困窮者自立支援制度・社会福祉法人や企業の地域連携』について伺います。

4-① 成年後見制度を知っていますか？（〇は1つだけ）

1. 知っている	2. ある程度知っている	3. あまりよく知らない	4. 知らない
----------	--------------	--------------	---------

4-② 生活困窮者自立支援制度を知っていますか？（〇は1つだけ）

1. 知っている	2. ある程度知っている	3. あまりよく知らない	4. 知らない
----------	--------------	--------------	---------

《 社会福祉法人の地域貢献・企業連携について 》

★社会福祉法人・企業「以外」の方のみお答えください。 →社会福祉法人・企業の方は4-④へ

4-③ 社会福祉法人、企業と連携を進めていく際に、どのようなことで関わりたいですか？

（〇はひとつだけ）

1. 地域住民からの日常生活における困りごとの相談・支援
2. 社会福祉法人や企業が所有する車両を活用した、地域の移動困難な方への支援
3. 生活困窮者等を支援する活動
4. 地域の子ども等への学習支援・子ども食堂
5. 地域住民向け福祉研修・講座の実施（介護予防・認知症予防・育児・福祉啓発・障害理解等）
6. 会議室等の貸し出し（居場所づくり等を行う際）
7. 地域交流イベント等地域を活性化する活動
8. 特になし
9. その他（ ）

★社会福祉法人、企業の方のみお答えください。

4-④ 社会福祉法人、企業の立場で、具体的に地域と連携したい取組はありますか？

5 鶴見区を良くするためのご意見・ご提案について

近年ではいわゆる「8050 問題」やヤングケアラー、ひきこもり等、当事者が声を上げにくい、気づかれにくい問題が深刻化してしまっています。

また、障害のある方や外国にルーツのある方、性的少数者等、様々な立場や背景、価値観の異なる人やその考え方について理解をより一層深めていくことが求められています。

みんなでたすけあい・支えあいの地域づくりを進めるために、取り組むべきこと・アイデア・ご意見があれば、ご自由にご記入ください。

☆ご協力ありがとうございました☆